



SPECIAL FEATURE

47都道府県の日赤職員の思いがカタチに!

# 全国ご当地ハートラちゃん誕生!

日本赤十字社の公式キャラクター「ハートラちゃん」の全国47都道府県バージョン「全国ご当地ハートラちゃん」が5月11日にデビュー! 今号では、そのビジュアルを一挙公開。地域の特徴豊かなキャラクターの中から、あなたの“推し”を見つけてください。

### ご当地ハートラちゃん 誕生秘話

ハートラちゃんは「苦しんでいる人を救いたい」という熱い心でボランティア活動をする森の精です。さまざまな赤十字活動に参加してきたハートラちゃんですが、今年5月、47都道府県の地域の魅力を伝える「全国ご当地ハートラちゃん」が活動を開始しました。このキャラクターたちは、2027年の日赤創立150周年を見据え、「赤十字の活動を

もっと知ってほしい」という日赤支部・施設の願いを託され、各地域の赤十字活動を盛り上げていきます。それぞれの地域の「思い」が詰まった衣装、手にする特産品などにも、ご注目ください。

「ハートラちゃん」の詳細情報は  
こちらをチェック>



### シルエットが個性的!



24 | 三重県  
伊勢海老&真珠ハートラちゃん  
名物の「伊勢海老」と「真珠」がコラボした豪華絢爛なデザイン。



31 | 鳥取県  
ラクダハートラちゃん  
県のシンボル「鳥取砂丘」をイメージして、ラクダとコアラ。



28 | 兵庫県  
コウノトリハートラちゃん  
特別天然記念物・コウノトリがハートラちゃんと幸せを運ぶ。

17 | 石川県  
石川県ぎゅっとハートラちゃん  
県民も慣れ親しんだ特徴的な地形にぎゅっと寄り添うハートラちゃん。



12 | 千葉県  
ピーナッツ飛行機ハートラちゃん  
生産量日本一のピーナッツに乗って、飛び立つハートラちゃん。

27 | 大阪府  
たこ焼きハートラちゃん  
ナニワ感漂うタコ尽くし&蝶ネクタイで関西弁が聞こえてきそう!?

33 | 岡山県  
桃太郎ハートラちゃん  
岡山と言えば…の「桃太郎伝説」と、特産品の桃をモチーフに。



14 | 神奈川県  
サーフィンハートラちゃん  
開放的な湘南の海とサーフィン文化を伝える爽やかデザイン。

13 | 東京都  
おすもうハートラちゃん  
まわし姿のハートラちゃんに、「都の木」イチヨウをあしらって。



8 | 茨城県  
ネモフィラハートラちゃん  
ネモフィラの妖精になって、茨城の美しい自然をアピール。



### 旅心くすぐるモチーフ

1 | 北海道  
シメエナガハートラちゃん  
雪の妖精・シメエナガとハートラちゃんのコンビで癒やしを。



36 | 徳島県  
阿波踊りハートラちゃん  
徳島の象徴「阿波踊り」と「鳴門の渦潮」を親しみやすく表現。



39 | 高知県  
よさこいハートラちゃん  
囃子を持って踊るハートラちゃん「よさこい祭り」を表現。



3 | 岩手県  
さんさ踊りハートラちゃん  
夏の風物詩「さんさ踊り」で賑やかに、華やかに。



22 | 静岡県  
茶娘ハートラちゃん  
お茶といえば静岡! ハートラちゃんがキュートな茶娘姿に変身。



32 | 島根県  
おろちハートラちゃん  
出雲神話の1つとして有名な「ヤマタノオロチ」がモチーフに。



44 | 大分県  
温泉ハートラちゃん  
温泉、カボス、しいたけ。大分の三大名物を1つのデザインに。



### ネタ2個の欲張りモチーフ



4 | 宮城県  
七夕まつり x ずんだ餅  
七夕ハートラちゃん  
「仙台七夕まつり」の飾りを前に、ハートラちゃんの手には「ずんだ餅」。

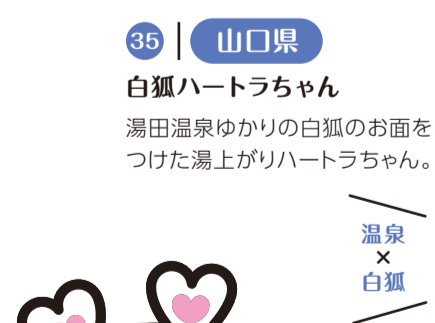


2 | 青森県  
ねぶたハートラちゃん  
ねぶた祭の元気いっぱいな「跳人」をイメージ。手にはリンゴうちわも。

5 | 秋田県  
なまはげハートラちゃん  
厄災を祓い、豊作・豊漁をもたらす「なまはげ」ときりたんぼ。



20 | 長野県  
登山ハートラちゃん  
登山姿で県鳥「らいちょう」を乗せた愛らしい振り向きポーズ。



35 | 山口県  
白狐ハートラちゃん  
湯田温泉ゆかりの白狐のお面をつけた湯上がりハートラちゃん。



11 | 埼玉県  
ねぎハートラちゃん  
深谷ねぎと県名・県草の由来でもある「まが玉」を合体。



18 | 福岡県  
メガネ&フグハートラちゃん  
隠れた名物、「めがねの聖地」と「若狭ふぐ」の2枚看板をアピール。



16 | 富山県  
ます寿司&ふりハートラちゃん  
名物・ます寿司と氷見の寒ブリで「寿司」といえば富山を発信。

42 | 長崎県  
カステラハートラちゃん  
宣教師とカステラで異国情緒あふれる長崎をアピール。



46 | 鹿児島県  
桜島ハートラちゃん  
桜島をバックに名物・サツマイモをもくもくする癒やしデザイン。



## 名産品・食べ物とコラボ!



15 | 新潟県  
お米ハートラちゃん  
収穫量全国1位を誇る「米どころ・新潟」を両手でアピール。

30 | 和歌山県  
しらす丼ハートラちゃん  
知る人ぞ知る和歌山名物しらすの魅力伝える。



43 | 熊本県  
すいかハートラちゃん  
生産量日本一のすいからひよこり顔をのぞかせるかわいい姿にほっこり。



6 | 山形県  
さくらんぼハートラちゃん  
サクランボの木の前に、ルンルン気分のハートラちゃん。



37 | 香川県  
うどんハートラちゃん  
全国的に名を馳せる「うどん県」を全面に。



38 | 愛媛県  
みかんハートラちゃん  
みかんに囲まれたハートラちゃんの耳には県花であるみかんの花が。

40 | 福岡県  
明太子リーゼントハートラちゃん  
ハートラちゃんが名物の明太子をあしらったリーゼントヘアに!



10 | 群馬県  
だるまハートラちゃん  
日本一のだるまの産地ならではの縁起のいいデザイン。



23 | 愛知県  
エビフライハートラちゃん  
ふわふわの衣と尻尾が愛嬌たっぷりの全身エビフライ姿。



29 | 奈良県  
鹿ハートラちゃん  
奈良公園の鹿をイメージして、手には鹿せんべいを。



34 | 広島県  
レモンハートラちゃん  
瀬戸内産レモンをモチーフにした「すっぱ顔」のハートラちゃん。



19 | 山梨県  
ぶどう&桃ハートラちゃん  
生産量日本一を誇るブドウとモモを、贅沢に両方盛り込んで。



7 | 福島県  
桃ハートラちゃん  
フルーツ王国・福島を象徴するモモの着ぐるみ姿のハートラちゃん。



26 | 京都府  
おオサンショウウオハートラちゃん  
つぶらな瞳とゆるかわいい姿のおオサンショウウオ。



45 | 宮崎県  
マンゴーハートラちゃん  
マンゴーモチーフで、「太陽」「明るさ」「南国感」をアピール。



47 | 沖縄県  
シーサーハートラちゃん  
沖縄の守り神・シーサーの姿で、人間の命と健康、尊厳を守る!



25 | 滋賀県  
牛ハートラちゃん  
代表的なブランド牛「近江牛」を連れた笑顔のハートラちゃん。

9 | 栃木県  
いちごハートラちゃん  
赤十字のシンボルカラーとも重なるイチゴデザインでPR。



## かぶり物で、かわいさ倍増

各県のハートラちゃんストーリーは特設サイトで!

個性的なデザインが誕生した背景、各県の担当者のメッセージの他、ハートラちゃんグッズが購入できるオンラインショップへのリンクも、こちらから >



## T P I C S

## 全国赤十字大会

## 名誉総裁 皇后陛下ご臨席

「令和8年全国赤十字大会」が明治神宮会館にて開催。全国から参集した会員、赤十字ボランティアらが見守る中、皇后陛下より、赤十字活動に顕著な功績のあった個人・団体に対し、有功章の授与などが行われました。

5月12日、日本赤十字社名誉総裁の皇后陛下、名誉副総裁の秋篠宮皇嗣妃殿下、常陸宮妃華子殿下、三笠宮寛仁親王妃信子殿下、高円宮妃久子殿下のご臨席を仰ぎ、令和8年全国赤十字大会が東京都渋谷区の明治神宮会館で開催されました。大会には約1600人の会員や赤十字ボランティアの代表らが出席。皇后陛下から代表受章者13人に有功章が授与された他、日赤清家篤社長からは、個人1人・法人1社に社長表彰が授与されました。

式典冒頭では、清家社長が全国からの温かな支援に感謝の意を表明。昨年から今年にかけての国内外の自然災害や、国外における武力紛争、感染症のまん延などの人道危機に触れ、国際赤十字の一員として、日赤の使命を果たしていく決意を語りました。

また、今大会では「日本赤十字社創立150周年に向けて」と題して、来年の150周年を前に、赤十字の創始者アンリー・デュナンから日赤の創設者 佐野常民へ、そして現在の日赤へと受け継がれる赤十字の理念とこれまでの歩みを振り返り、未来へ向かうメッセージが掲げられました。

「実践活動報告」では、日本赤十字社医療センター 調整監の苫米地則子さんが、2025年のミャンマー地震における国際救援活動について報告。続いて、令和7年度高校生ボランティア・アワード全国大会で「日本赤十字社JRC\*賞」を受賞した島根県立三刀屋高等学校JRC部の代表・森山あおいさんが、地域の防災意識を高める活動を報告しました。2人の報告に、皇后陛下ならびに各妃殿下は真摯に耳を傾けられ、会場を後にする際には、2人に対して熱心にご質問するお姿も見られました。

\*Junior Red Cross=青少年赤十字



式典終了後の特別プログラム「赤十字講習100周年記念プログラム」では、今年12月に赤十字講習が100周年を迎えるにあたり、日赤全社を代表して本社 健康安全課からの謝意が述べられるとともに、5月からスタートした「赤十字講習100周年キャラバン」や、記念企画の実施についても発表。

健康生活支援講習の紹介では指導員らが「体操」を会場の参加者と一緒に行いました。

また、日赤公式キャラクター「ハートラちゃん」のご当地版デザインをいち早くお披露目。全国47都道府県それぞれの特色が表現された魅力的なデザインに、会場中が湧き立ちました。

## 実践活動の報告

紛争下の人々に襲いかかった大地震  
現地赤十字社の力を高める支援

日本赤十字社医療センター  
調整監  
とまべち のりこ  
苫米地 則子さん

ミャンマー地震は、国内紛争によって300万人超が避難する中で発生しました。日赤が派遣した緊急対応ユニットの一員として現地で活動した苫米地さんは「気温は40度を超え、移動も制限される中で、巡回診療に懸命に取り組む現地スタッフや赤十字ボランティアの姿が強く印象に残っています」と述べます。日赤チームは、ミャンマー赤十字社の「活動の質を高める」ための支援に注力。「国際支援の形は変わりましたが、あくまでも現地が主体で、さまざまな制限や困難があっても、支援する側は現地の力を信じ、その強化に取り組むことが不可欠です」

地域の防災意識向上に貢献した  
「神楽でつなぐ、地域の絆と防災力」

島根県立三刀屋高校  
JRC部  
もりやま  
森山 あおいさん

森山さんは、JRC部一丸となって取り組んだ地域の防災活動について報告。「防災を自分ごととして考えてもらうために、地域に根付く神楽『ヤマノオロチ』を題材にしたオリジナルの紙芝居を制作して、読み聞かせをしました。すると、皆さん熱心に聞いてくれて、その後の防災体験を経て、「意識が変わった」手応えがありました」と、森山さん。その他、日赤島根県支部で学んだことを元に、停電・断水中のサバイバル料理や、避難所を想定した新聞紙スリッパ作りなどの体験会を実施。住民の防災意識が向上し、「動ける人の輪」が広がった、と振り返りました。

# Area News

エリアニュース



全国各地、あなたの生活のすぐそばで日本赤十字社の活動は行われています。



## 奉仕団と青年赤十字、 地元の子どもたちがふれあう お花見イベント



日赤京都府支部では、3月26日・27日、南区赤十字奉仕団婦人部と青年赤十字奉仕団などのボランティア40人が協力してお花見イベントを開催しました。このイベントは、子どもや障害のある方たちと地域住民が自然な関わりの中で理解し合い、「共に暮らす」地域づくりを目指したものです。当日は、児童福祉施設に通う70人が同支部に招かれ、防災学習を兼ねた炊き出し体験として、非常用炊飯袋を使った調理に挑戦。バターと砂糖で味付けのふかし芋と一緒に作る中で、自然と会話が生まれ、会場は笑顔にあふれました。完成後はふかし芋を片手に京都御苑でお花見。参加した児童は地域に見守られている安心感を、ボランティアは子どもたちへの理解を深め、互いに貴重な機会となりました。



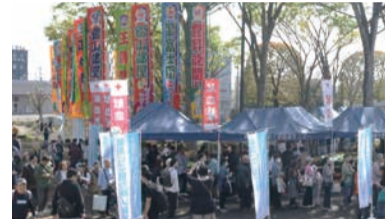
## 最新技術でリアルに再現 「災害救護ジオラマ」 岡山県支部にて展示開始



日赤岡山県支部では、ジオラマやフィギュアを主力商品とする箱庭技研(オートメディア出版株式会社)と共同で制作を進めていた「災害救護ジオラマ」が完成し、同支部の玄関ホールに設置しま



## 名勝負と共に21年 大相撲の春巡業で、献血も好取組



同企画の呼びかけ人でもある株式会社湘南営繕協会 最上重夫社長は「これからも元

4月11日、大相撲の春巡業・藤沢場所が秋葉台文化体育館で開催され、「第21回大相撲藤沢場所実行委員会主催 献血キャンペーン」が行われました。当日は献血バスが7台出動し、朝9時～午後3時までの6時間で481人が来場。それに先じて昨年の10月1日から神奈川県内の複数会場で実施された献血キャンペーン全体として、合計1179人が献血に協力しました。2006年に開始した同キャンペーンは、今回で延べ1万2081人が協力、県内でも最大規模の取り組みとなっています。藤沢場所の実行委員長(勳進元)であり、



## ユース同士が感動の再会! カンボジア赤十字社との 国際交流が、さらに深まる



日赤広島県支部とカンボジア赤十字社は、5カ年の「ユース相互交流事業」の一環で、昨年12月のカンボジア訪問以来2度目となるスタディーツアーを実施しました。4月、カンボジア赤十字社のユースたちが広島県を訪問、広島県内の高校生・大学生からなるユースメンバー12人との再会を喜び合いました。同ツアーの内容は、平和学習、広島市豪雨災害伝承館の訪問、植樹活動、民泊による家業体験など。豪雨災害の被害を伝承館で学んだ翌日、防災教育指導者の資格を持つ高校生ユースが主催する英語日の防災セミナーでは、防災や地域の課題について活発に意見交換。異なる文化、背景を持つ同世代同士が対話を重ねることで、国や言語の違いを越えた防災意識の醸成と相互理解につながりました。

した。同社とはかねてより交流があり、「赤十字のPRに技術力を生かしたい」との申し出があったことから、今回の企画が実現しました。

ジオラマでは、災害救護にまつわる4つのシーン(救護班出発式、救援物資輸送、災害対策本部、被災地での診療)が1つのジオラマケースに詰め込まれており、赤十字の救護活動がまるで目の前で展開されているかのように臨場感たっぷりに感じることが出来ます。フィギュアは、支部職員や救援物資を全方位からスキャンし、フルカラー3Dプリンターで出力されたもので、驚くほどリアルな仕上がり。

このジオラマによって、これまでは日赤関係者や被災者の方しか目にする事ができなかったシーンに新たな魅力が宿り、より多くの方に赤十字の活動を知っていただくきっかけとなる事が期待されます。岡山県へお出かけの際は、県支部にて「災害救護ジオラマ」をご覧ください。



## 赤十字講習100周年記念キャラバン 沖縄からスタート!



日本赤十字社が、命と健康を守る講習事業を開始して今年で100周年。それを記念し、AEDトレーナーや心肺蘇生訓練人形などをまとめた「キャラバンセット」をバトンのように引き継ぎながら救急法講習を実施し、南と北からゴール(日赤本社)を目指す「赤十字講習100周年記念キャラバン」を展開します。

5月2日、「沖縄こどもの国フェスティバル2026」内の赤十字ブースにて「親子でAED」が開催され、キャラバン

のスタートを切りました。沖縄市地区長の花城大輔沖縄市長からの力強い開会宣言の後、会場の子どもたちと沖縄市赤十字奉仕団による心肺蘇生のデモンストレーションを実施。来場した人々からは、「子どもにもわかる説明で心臓マッサージ(心肺蘇生)を学べて良かったです」「キャラクターもかわいくて、家族で赤十字の活動に興味がありました」などの感想が寄せられました。

記念キャラバンの情報はこちらから



## 100年以上続く国際人道基金 「昭憲皇太后基金」



昭憲皇太后(明治天皇の皇后)が1912年に国際赤十字の平時事業を奨励するために寄贈された10万円(現在の3億5千万円相当)を元に創設された、国際人道基金「昭憲皇太后基金」。毎年4月11日のご命日ごろに配分先が発表され、100年以上続く国際人道基金として、世界中で広く知られています。

105回目となる今回は、15カ国の赤十字社、赤新月社に対して総額8616万円相当(43万884スイスフラン\*)が配分されました。同基金の配分額

は、第1回から累計で34億円相当(1735万8594スイスフラン)に換算され、配分先は175の国と地域にのびります。

コスタリカ赤十字社には約600万円(3万スイスフラン)が配分され、「先住民族ボランティア主導のレジリエンス(回復力)強化」のために使われています。先住民族のコミュニティでは地理的な孤立などの理由により、災害時の緊急対応が遅れがちです。本事業では、先住民のボランティアをコミュニティの初動対応者として育成し、伝統的な知識と現代的手法を組み合わせることで、迅速な災害対応を実現します。

また、エジプト赤新月社には、約563万円(2万8160スイスフラン)が配分され、「子どもの年齢層別救急法訓練」に生かされています。その背景には、子どもが事故や急病に遭遇するケースが多い一方で、救急法教育を受ける機会が少ないという課題が、この取り組みでは、年齢に応じて楽しく



コスタリカ赤十字社の活動(参考)



エジプト赤新月社の活動(参考)

学べる救急法の仕組みを整え、命を守る力を育てることで、将来にわたって地域が安心して暮らせる基盤を築きます。

\*1スイスフラン=199.96円(令和8年4月7日レート)

基金の配分先の情報はこちら



## 国内災害義援金 受け付け中

詳細はこちら



日本赤十字社では、岩手県大槌町での林野火災に伴う災害の他、国内災害義援金の受け付けを行っています。

## 日本赤十字社からのお知らせ

常任理事会、代議員会、予算決算など  
会議開催および財務に関する  
ご案内・ご報告はこちら▶▶▶



**PRESENT!!**

**MOOMIN ARABIA**  
FINLAND

Loveマグ30周年記念  
「Love ミニマグ ピンク」

ムーミンファンから大人気の「Love」マグは、1996年に誕生し、今年30周年を迎えました。「Love」コレクションが伝えるのは、愛のある優しい世界。今回は同コレクションの中から、容量12mlのミニチュアマグをプレゼント。正面には、ムーミンと恋人のスノークのおじょうさんが抱き合い、背面は二人の寄り添う後ろ姿が描かれています。

約32mm  
H 30mm  
W45mm

**50名様に当たる!**

BACK

© MoominCharactersLtd

## 赤十字NEWSオンライン版はコチラ▶

赤十字NEWSはWEBでも閲覧できます。ぜひアクセスしてください!



プレゼント希望者は右の二次元コードからご応募ください。  
応募締め切り: 2026年6月30日(火)  
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

ご応募はこちら



スマトラ島

# 現地派遣の日赤看護師が見た、甚大で深刻な洪水被害と防災・減災の課題



洪水後、水が引かず泥水が残る地域では、長靴を持たない住民がはだしで歩く姿も(スマトラ島 アチエ州ピディジャヤ)

## 何が起こったの?

- ✓ 2025年11月末、インドネシア・スマトラ島で大規模な洪水や土砂崩れが発生
- ✓ 3州53県の広範囲で道路や橋が壊れ、通信や電気も途絶える
- ✓ 洪水や土砂災害による死者は1000人を超えると報じられている

日赤がインドネシア赤十字社(以下、インドネシア赤)と協力してジャワ島における防災事業を進める中で、海峡を挟んで隣り合うスマトラ島で発生した洪水被害。2025年11月から2026年3月までインドネシア現地代表部(ジャワ島/ジャカルタ)に派遣されていた大阪赤十字病院の新井暢助産師・看護師は、発災直後に急きょアセスメント(現地調査)のために被災地のスマトラ島を訪れたときの状況をこう振り返ります。

「孤立する集落もあり、車両移動が困難な場合には、支援者たちは徒歩や船で現地入りしました。家屋や農地は流失・埋没し、避難所もプライバシーや衛生環境が十分とはいえない状況。住民からは、『雨が降ると恐怖で眠れない』『家を失って何も残っていない』など悲痛な声も聞かれました」

2004年にスマトラ島沖で発生した大地震とその津波を経験した人々は、この被害を「第二の津波」と語ったそう。「人々が支え合いながら懸命に生活を立て直そうとする姿が強く印象に残りましたが、一方で、『災害が起きてからの支援だけでは足りない』ということも痛感しました」と新井さん。



大阪赤十字病院 助産師・看護師 新井 暢

### 被災地で得た気づき

防災・減災の知識や備えがあれば、防げたかもしれない被害があった。(任地の)隣の島の凄惨な被災地に立ち、平時からの防災教育や備えの積み重ねの大切さを改めて実感した。

インドネシア赤は発災直後から救援活動を行い、きれいな水の供給や保健医療、生活再建支援など、さまざまな支援を続ける

## インドネシア防災強化事業

# インドネシア赤×日赤

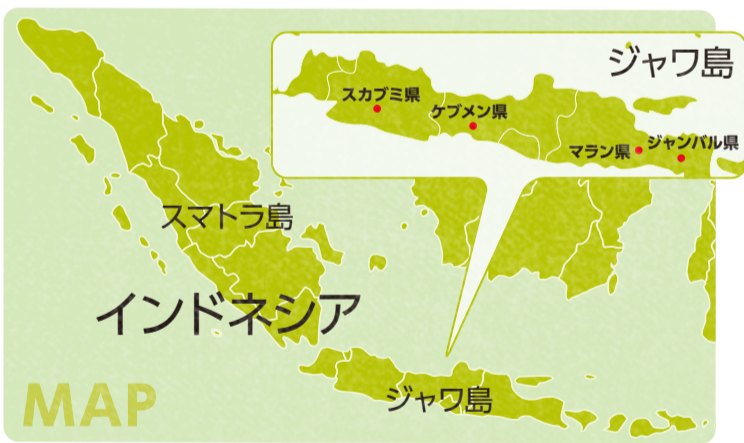
# 2

ジャワ島

## 未来の命を守る、「自分ごと」の防災へ

### 2020年から続く、2国間防災事業

日赤は、インドネシア赤と共に、2020年から学校と地域のレジリエンス強化のための防災事業を実施。災害大国である同国の中でも巨大地震リスクが指摘されるジャワ島において、2020～2023年にはケブメン県(中部ジャワ州)とマラン県(東部ジャワ州)を対象に、2024年11月からは、スカブミ県(西部ジャワ州)とジャンバル県(東部ジャワ州)を対象にこれまでに396人の教員が赤十字の防災教育研修で指導法を習得し、延べ730人の生徒に防災授業が実施されています。



日赤とインドネシア赤は、「備える力」を高めるためのアプローチを進めています。今年1月には、事業地において大きな防災・減災イベントが行われ、スカブミ県とジャンバル県から合わせて20校、約1万人の生徒と教員が参加しました。災害に関する授業、防災大使の選出、啓発ポスターや動画制作などの防災・減災キャンペーン、避難訓練の4要素で構成されたこのイベントでは、学校では先生たちが、地域ではボランティアが準備・運営の主体になっています。

前に出る姿を見たとき、私の中の『支える/支えられる』という固定概念が揺さぶられました。学校では教室中に活気があふれ、『地震はなぜ起きるのか』『そのとき自分はどう動くべきか』という問いに、生徒たちが次々と考えを書き出します。それはまさに、命に関わる“真剣な学び”。私の胸に、小さくても確かな希望が灯りました」と語ります。学校や地域が主体となって取り組むことで、“形式的だった訓練”が“日常的な確認”へ変わりつつあります。これからも、地域のレジリエンス向上を目指して支援は続きます。

現地支援にあたった新井さんは「支援する人が前に立つのではなく、現場の人たちが

### 防災力を高める取り組み強化へ

- ・教員向けの防災教育研修など**学校防災の推進**
- ・地域の防災ボランティアチーム結成による**村落防災強化**
- ・学校・村落・自治体が一体となった**防災力の底上げ**



避難訓練に参加する学生



防災を啓発するポスターを制作中の生徒 ©インドネシア赤十字社

## VOICE 「考え、動き、見直す。生徒たちに芽生えた防災意識」

スカブミ県 学校教師 スチさん

以前は、防災訓練は「形式的なもの」として受け止められることが多かったように思いますが、今では生徒たち自ら友人を誘って参加したり、非常用持ち出し袋について質問したり、主体的に動く姿が見られます。学校全体でも、役割分担が明確になり、避難経路や集合場所の確認も日常的に行われています。知識が行動に移り、改善点を洗い出して解決していく——その循環が出来つつあります。



赤十字スタッフと打ち合せをするスチ先生(右から2番目) ©インドネシア赤十字社

いまでも続く支援 この取り組みは、いまでも現地で続いています。日赤の国際活動の最新情報は、「赤十字国際ニュース」(メール)でもお届けしています。



ぜひご登録ください!